

日時：令和8年2月16日（月）19:00～
場所：阿弥陀地域交流センター 多目的ホール

第13回JR曾根駅周辺地区まちづくり協議会

次 第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

1) まちづくり計画案の承認

【資料1】

2) まちづくり協議会の解散

4 その他

5 閉会

・副会長あいさつ

J R 曾根駅周辺地区まちづくり計画（案）

J R 曾根駅周辺地区まちづくり協議会

目 次

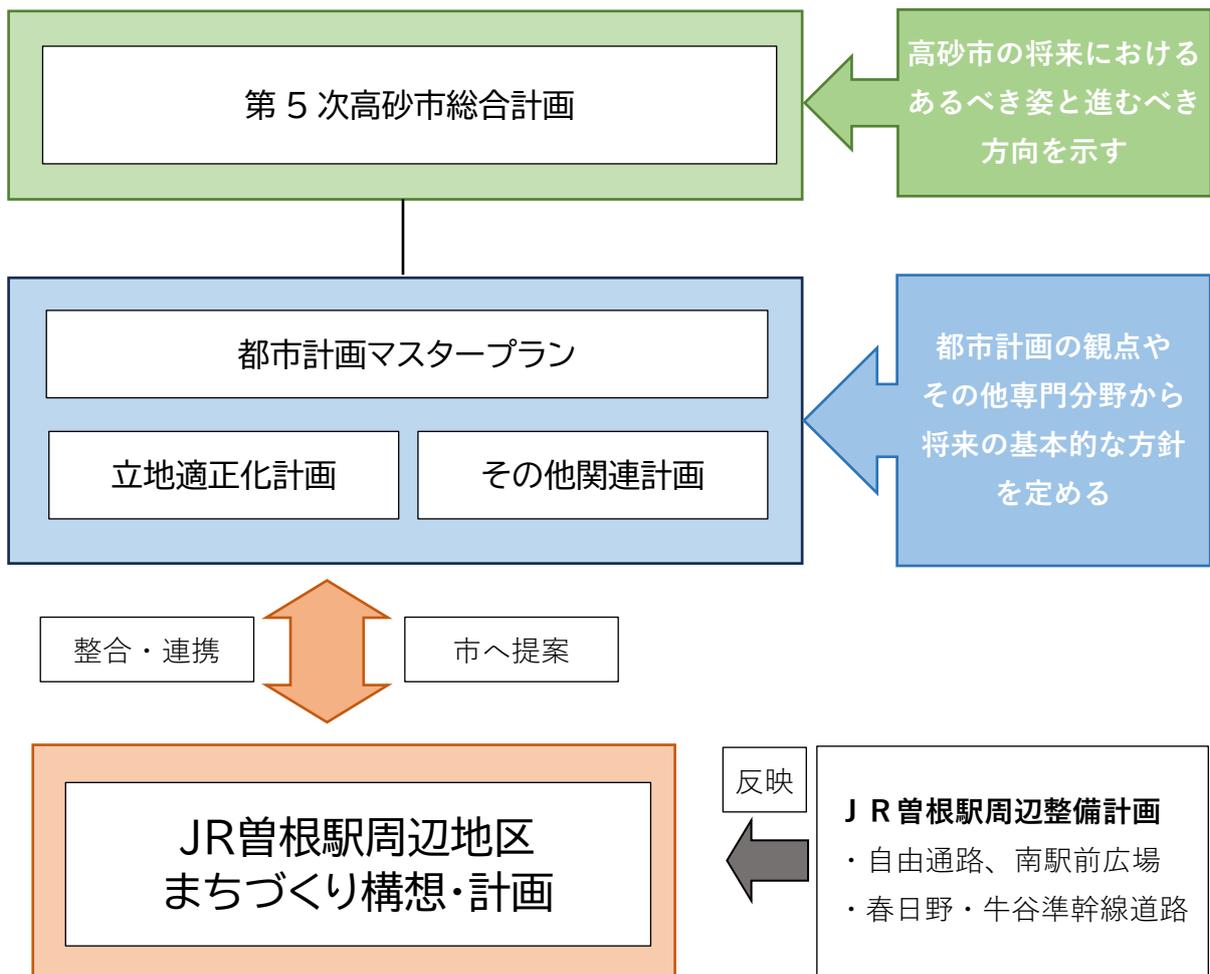
序章. 基本計画の策定にあたって	1
1. まちづくり構想・計画の位置づけ	1
2. 策定の経緯	3
第1章. 地区の現状と魅力（ポテンシャル）	4
1. JR 曾根駅周辺の発展経緯.....	4
2. 地区の魅力（ポテンシャル）	6
第2章. まちづくりの課題と将来ビジョン	7
1. 既存の課題整理	7
2. まちづくりのテーマと基本方針	11
第3章. 機能別施策	16
1. 駅前空間・交流機能の強化	16
2. 安全・安心と防災機能の高度化	18
3. 生活利便性とバリアフリーの実現	20
4. 新たなモビリティ・交通アクセスの改善	22
第4章. 今後の推進に向けて	24
1. 整備と利用が両立する持続可能な体制の確立	24
2. 道路拡幅を契機とした駅南側地区の再構築	24

序章. 基本計画の策定にあたって

1. まちづくり構想・計画の位置づけ

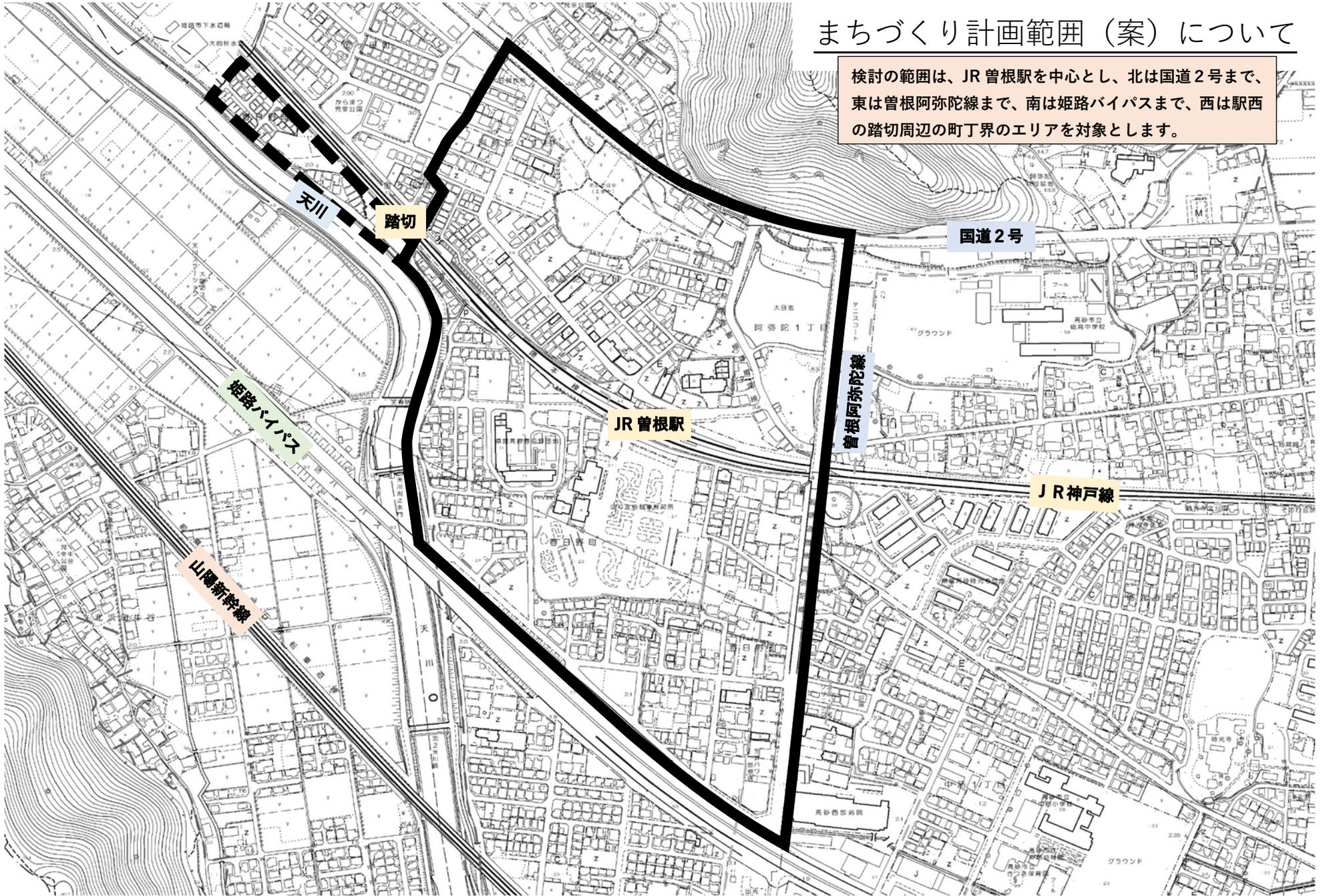
本計画は、JR 曾根駅周辺の将来を見据えた魅力あるまちづくりをめざし策定するものです。駅周辺整備は、地域の生活に深く関わる重要な事業であり、計画段階から住民や事業者が参加し対話の取り組みを進めることにより、将来の JR 曾根駅周辺まちづくりのあり方について多様な意見を踏まえて検討し、地域の個性を活かしたまちづくりの実現をめざします。

本計画は、高砂市における最上位計画である「第5次高砂市総合計画」（市の将来像と進むべき方向性を示すもの）や、都市計画の基本的な方針を定めた「都市計画マスタープラン」、さらには「立地適正化計画」などの関連計画との整合性・連携を図ります。また、具体的に進められている JR 曾根駅周辺整備計画（自由通路、南駅前広場、春日野・牛谷準幹線道路）の内容についても計画に反映するものとします。



まちづくり計画範囲（案）について

検討の範囲は、JR 曾根駅を中心とし、北は国道 2 号まで、東は曾根阿弥陀線まで、南は姫路バイパスまで、西は駅西の踏切周辺の町丁界のエリアを対象とします。



2. 策定の経緯

本基本計画は、令和5年7月に設立された「JR 曾根駅周辺地区まちづくり協議会」を中心に、必要に応じて住民へのアンケートなども行いながら意見集約をして策定しました。

活動は令和5年7月19日の第1回設立総会に始まり、地域資源や課題のヒアリング、駅舎デザインに関するワークショップ、地域課題アンケートの実施、重要度の高い要望（交流機能、防災機能、利便性、モビリティ）に関するワークショップなどを経て、計画案の策定に至っています。

特に、令和6年9月には土山駅、福崎駅、はりま勝原駅の見学会を実施するなど、先進事例の研究を通じて具体的なまちづくりのイメージを醸成してきました。



まちづくり協議会設立総会



見学会の様子（福崎駅）

第1章. 地区の現状と魅力（ポテンシャル）

1. JR曾根駅周辺の開発経緯

（高砂市都市計画マスタープランより抜粋）

○中筋地域

- ・中筋地域は、原始時代に形成された沿岸砂州上の集落です。
- ・13世紀に創建された時光寺があり、江戸時代には農業を主として栄えました。
- ・近代に入ると竜山石の採掘が始まり、明治以降は煉瓦工場も営まれました。

○曾根地域

- ・曾根地域は、天川河口の砂州と沿岸部の砂州が合成された地形に成り立っています。
- ・中世から塩田が存在し、江戸時代には入浜式塩田が沿岸部に展開しました。
- ・近代には鉄道の開通や煉瓦工場の設立などにより変容しましたが、300年以上にわたる塩田廃止により商工業の基盤が変化しています。

○阿弥陀地域

- ・阿弥陀地域は、北側の阿弥陀山地に囲まれた盆地と、南側の段丘と沖積地からなります。
- ・古代遺跡が数多く分布し、古代山陽道が東西に貫いています。
- ・江戸時代には西国街道に沿って集落が形成され、農業や竜山石の採掘が行われました。
- ・近代には鉄道が敷設されましたが、大規模な産業転換は行われず、田園風景が広がる自然の残るエリアです。

○北浜地域

- ・北浜地域は、北浜山地と大塩砂州に囲まれた後背湿地帯に形成されました。
- ・西浜は製塩従事者が多く住み、北脇にも塩田が広がりました。
- ・牛谷は、かつて谷里と呼ばれていたが、奈良時代の霊牛伝説から名を改めたといわれています。北脇と西浜の名を合わせて北浜という地名が名づけられました。
- ・現在姫路市である大塩と同じ政治文化経済圏でした。



昭和36年頃のJR曽根駅周辺

- ・まちづくり計画範囲はほとんどが田畑である。
- ・東側に延びる西国街道沿いには人家が並んでいるのが確認できる。



昭和45年頃のJR曽根駅周辺

- ・まちづくり計画範囲に、土地利用転換が起こり、住宅等が建設されている。
- ・駅南側には「はりま自動車教習所」が立地している。
- ・周辺でも住宅団地の建設が見られる。



平成24年頃のJR曽根駅周辺

- ・まちづくり計画範囲からほぼ田畑がなくなり、住宅等が立地している。
- ・大日池が一部埋め立てられ、鹿島中学校が建設されている。

2. 地区の魅力（ポテンシャル）

JR 曾根駅周辺地区は、強固な地域コミュニティと豊かな自然・歴史文化を併せ持つ高いポテンシャルを有しています。

○自然環境

- ・駅の北側には「播磨富士」とも呼ばれる高御位山があります。天気の良いと淡路・四国も見渡せ市ノ池公園や阿弥陀町新池のコウノトリも見どころです。
- ・日笠山～牛谷にかけてのハイキング道も自然豊で桜やノジギクの名所となっています。
- ・自然豊かな環境に囲まれた当地域は夏も涼しく過ごしやすい環境にあります。



（高砂市 HP より）

○歴史・文化

- ・高御位山の麓にある鹿島神社や経政神社、曾根天満宮、時光寺などの有名な神社仏閣があり、曾根天満宮の例大祭をはじめとした祭り文化があります。
- ・国道2号の南側には西国街道が通っており、当時の面影をたどることができます。



（高砂市 HP より）

○人・コミュニティ

- ・祭りによる人々のつながりなどしっかりとした地域コミュニティが醸成されたまちです。
- ・地域住民だけでなく、周辺や臨海部の企業へ通勤される方や通学者、ハイキングに訪れる登山客などの利用も多く、多様な人々が駅を利用する地域特性があります。



（高砂市 HP より）

第2章. まちづくりの課題と将来ビジョン

1. 既存の課題整理

JR 曾根駅周辺地区が抱える課題を、主に交通アクセス、生活利便性、そして地域固有の課題に分けて整理します。

○駅前広場とアクセス

- ・ 駅北側には既存の駅前広場がありますが面積が狭く、南側にも駅前広場が整備される予定であるものの、車のアクセスや駐停車の利便性の向上が大きく改善されるか懸念が残る状況にあります。
- ・ 特に南側駅前広場への東西道路からのアクセスが悪いことが、駅周辺の交通結節点としての機能強化を妨げています。



駅北側の駅前ロータリー

○周辺交通インフラのぜい弱性

- ・ 姫路バイパスや国道2号など地域の東西幹線道路から駅前に至る南北の道路がぜい弱で、駅へのアクセスが悪い状況にあります。
- ・ 駅東側の県道曾根阿弥陀線の鉄道高架部分にある通称ループは、駅前へのアクセスルートとして危険な状況にあります。
- ・ 駅および駅周辺が整備され、駅前への交通量が増えることを想定すると、自動車・自転車・歩行者それぞれの安全性を確保することが求められます。
- ・ 駅西側の天川堤防沿いの道路は、姫路市域は4m程度の幅員が確保されていますが、高砂市域は同様の幅員が確保できていない箇所もあり、駅前へのスムーズなアクセスができない状況にあります。
- ・ 国道2号や姫路バイパスが渋滞した際に、地区内に通過交通が流入している現状があります。



県道曾根阿弥陀線の鉄道高架部分

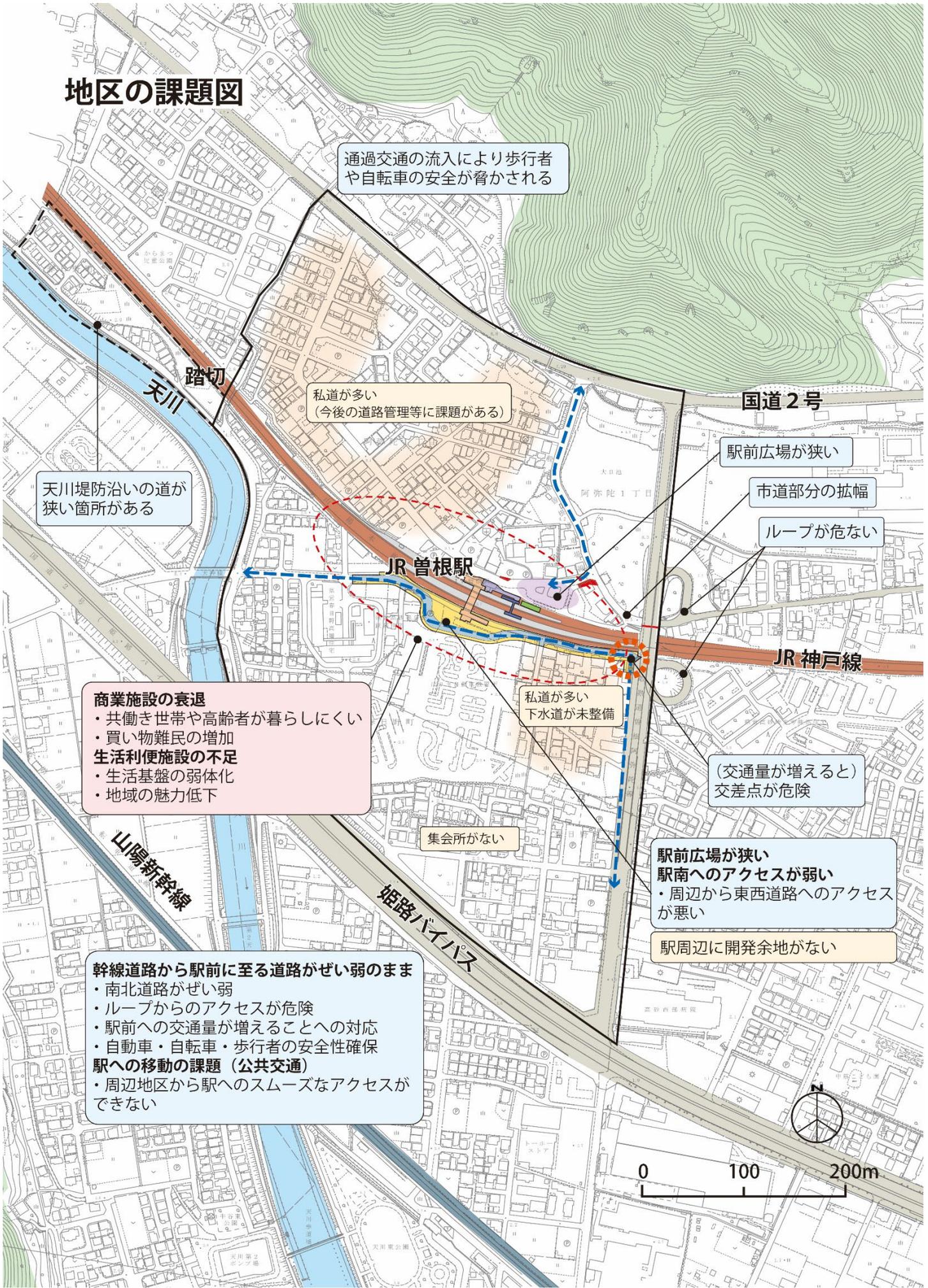
○生活利便性の低下と移動手段の不足

- ・駅周辺に商業施設が少なく、駅から歩いて行けるスーパーなどが近くにありません。共働き世帯や高齢者が暮らしにくく、今後、買い物難民の増加が懸念されます。
- ・公園などの緑空間が少ないことや、病院や銀行 ATM など生活利便施設が減少し生活基盤が弱体化しているため、地域の利便性低下、魅力低下が懸念されます。
- ・移動手段についても、じょうとんバスなどの公共交通はあるものの、2ルート各5便（平日）と決して多くはなく、周辺地区からの駅へのスムーズなアクセスができていない状況です。

○地区別の課題

- ・駅周辺の地域には、地区の特性に応じた個別の課題があり、実情に合わせて課題解決を図る必要があります。

地区の課題図



通過交通の流入により歩行者や自転車の安全が脅かされる

私道が多い
(今後の道路管理等に課題がある)

国道 2号

駅前広場が狭い

市道部分の拡幅

ループが危ない

JR 神戸線

JR 曽根駅

天川堤防沿いの道が狭い箇所がある

商業施設の衰退
 ・共働き世帯や高齢者が暮らしにくい
 ・買い物難民の増加
生活利便施設の不足
 ・生活基盤の弱体化
 ・地域の魅力低下

私道が多い
下水道が未整備

(交通量が増えると) 交差点が危険

集会所がない

駅前広場が狭い
駅前へのアクセスが弱い
・周辺から東西道路へのアクセスが悪い

駅周辺に開発余地がない

幹線道路から駅前に至る道路がぜい弱のまま
 ・南北道路がぜい弱
 ・ループからのアクセスが危険
 ・駅前への交通量が増えることへの対応
 ・自動車・自転車・歩行者の安全性確保
駅への移動の課題 (公共交通)
 ・周辺地区から駅へのスムーズなアクセスができない

姫路バイパス

山陽新幹線



【参考】地域の課題について（回答数21名）

	重要度→	高い	中	普通
1. 交通・移動に関する課題				
・ 駅舎の不便さ、駅南口がないこと		20	1	0
・ 駅前広場が狭い		8	7	2
・ 公共交通の不便さ（駅へのアクセス・じょうとんバス）		11	5	4
・ 道路の狭さ（車道と歩行者道の分離ができていない）		16	4	0
・ 南北の道がとてもわかりにくく弱い。ループが危ない。		13	5	1
・ 2号線、慢性的な渋滞（特に出通勤時。それを回避するために旧道を利用。危険な運転が横行）		11	4	2
2. 商業・生活基盤に関する課題				
・ 商業施設の撤退・減少 （買い物難民・生活基盤の弱体化）		14	5	2
・ 交番や銀行がないこと		5	11	2
・ 行政との距離がある（市民病院、市役所）		7	8	4
・ 空き家・駐車場の増加		4	10	5
3. 高齢化に関する課題				
・ 高齢者の増加		13	3	4
・ 高齢者の移動・買い物が困難		14	3	2
4. その他に関する課題				
・ 水害の心配		6	5	6
・ 下水道が未整備		6	2	11
・ 農地の荒廃		4	8	8
・ 人口流入が少ない		9	5	6
・ J R、2号線周辺の住宅地整備		4	6	8
・ 集会所がない（春日野）		4	4	9
・ 加古川や姫路に行かないと高砂には何もない		6	6	6

2. まちづくりのテーマと基本方針

本計画は、上記の課題と地域資源を踏まえ、以下のテーマと基本方針に基づきまちづくりを検討します。

◆まちづくりのテーマ

誰もが暮らしやすい、安全安心なまちづくり
～駅とまちが一体となり、歴史文化が薫るまちへ～

◆まちづくりの基本方針（方向性）

○魅力的な駅前広場の整備

- ・交通結節点の強化だけでなく、人が集まり交流し、災害時にも活用できるだけの面積を確保した魅力的な駅前広場の整備が望まれます。
- ・新たなモビリティの普及など今後の交通環境の変化も想定し、駅前広場の空間を想定する必要があります。
- ・日頃から居住者だけでなく、通勤者や通学者、登山などの来訪者の利用も多いため、多様な利用に対応した広場づくりを行う必要があります。
- ・周辺道路の整備を行い、駅前広場へのスムーズなアクセスを確保することが望まれます。

○幹線道路から駅前への連携強化

- ・JR 曾根駅から国道2号や姫路バイパスへのアクセスも強化し、自動車・自転車・歩行者それぞれが安全に駅前にアクセスできる道路の整備が望まれます。
- ・駅東側のループおよびループ下の安全性の確保や天川堤防沿いの道路幅員の確保も望まれます。

○駅周辺のあり方（安全・安心と暮らしやすさの実現）

<安全・安心>

- ・日常的には交流拠点や憩いの場となり、災害時には防災拠点となる駅前のシンボルとなる公園の整備が望まれます。
- ・駅周辺の安全性の確保の観点から防犯カメラや交番等の設置が望まれます。
- ・水害に備え、高所の避難所の確保を望みます。既存の建物の利用も考えられます。

<暮らしやすさ>

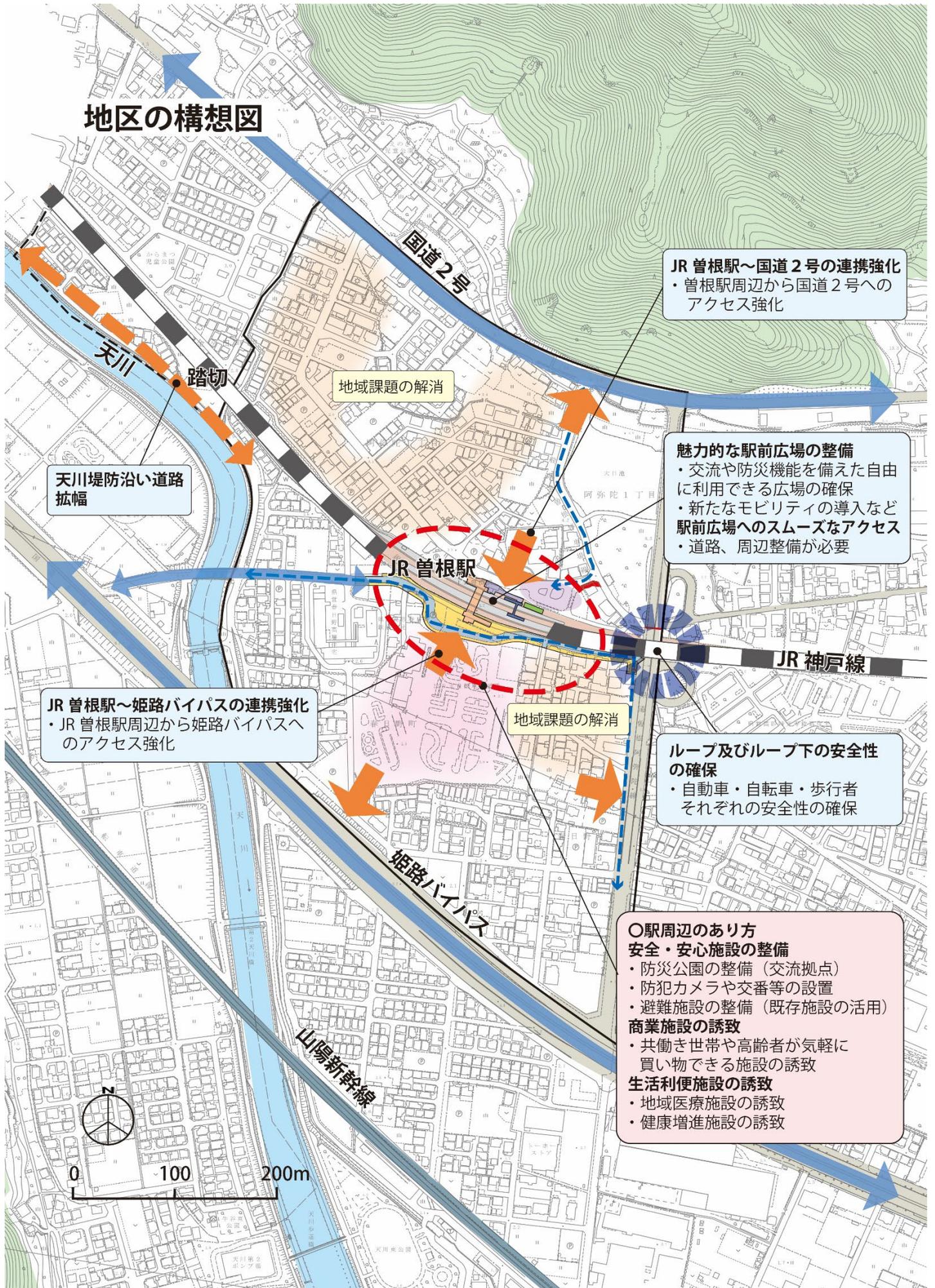
- ・商業施設の不足を解消するため、共働き世帯や高齢者が日常的に利用できるスーパーなどの商店誘致を望みます。
- ・まちのにぎわい、生活利便につながる医療モールや健康増進施設、コミュニティセンターなどの誘致を望みます。

○地区個別の課題解決

- ・駅周辺の地域が持つ地区ごとの特性に応じた個別の課題（例：私道の公道化、下水道未整備、集会所不足等）についても、実情に合わせて解決に向けた取り組みを進めることを望みます。

○持続可能な地域運営体制の確立

- ・駅前広場の機能が地域に定着し、長期にわたり使い続けられるよう、整備後の維持管理と運営が重要と考えます。計画初期段階から、地域による運営参加など持続可能な仕組みを構築することを念頭に施設整備を行うことを望みます。



地区の構想図

JR 曾根駅～国道2号の連携強化
 ・曾根駅周辺から国道2号へのアクセス強化

地域課題の解消

魅力的な駅前広場の整備
 ・交流や防災機能を備えた自由に利用できる広場の確保
 ・新たなモビリティの導入など駅前広場へのスムーズなアクセス
 ・道路、周辺整備が必要

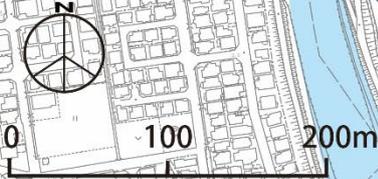
天川堤防沿い道路拡幅

JR 曾根駅～姫路バイパスの連携強化
 ・JR 曾根駅周辺から姫路バイパスへのアクセス強化

地域課題の解消

ループ及びループ下の安全性の確保
 ・自動車・自転車・歩行者それぞれの安全性の確保

○駅周辺のあり方
安全・安心施設の整備
 ・防災公園の整備（交流拠点）
 ・防犯カメラや交番等の設置
 ・避難施設の整備（既存施設の活用）
商業施設の誘致
 ・共働き世帯や高齢者が気軽に買い物できる施設の誘致
生活利便施設の誘致
 ・地域医療施設の誘致
 ・健康増進施設の誘致



■交通・移動に関すること(まとめ)

分類		現状	直近の整備	残る課題	めざす方向性	
駅前 広場	駅北	駅前広場が狭い	・ロータリー、駐輪場が整備済み	駅前広場が狭い	魅力的な駅前広場の整備 ・交流や防災機能を備えた自由に利用できる広場の確保 ・新たなモビリティの導入 など 駅前広場へのスムーズなアクセス ・道路、周辺整備が必要	
	駅南	駅前広場がない	・駅前広場を整備	駅前広場が狭い 駅南へのアクセスが弱い ・周辺から東西道路へのアクセスが悪い		
周辺 交通	駅北	狭い	・隅切りなどの道路改修	幹線道路から駅前に至る道路がぜい弱のまま ・南北道路がぜい弱 ・ループからのアクセスが危険 ・駅前への交通量が増えることへの対応 ・自動車・自転車・歩行者の安全性確保	自動車・自転車・歩行者が安全に駅前にアクセスできる道路の整備 ・交差点の拡幅 ・南北・東西の交通を便利にする ・県道だけでなく市道も拡幅(北側) ・駅南へ至る幹線道路の整備	
	駅南	狭い	・東西道路の拡幅			
	国道2号・バイパス	幹線道路の渋滞時に地区内に通過交通が流入		通過交通の流入により歩行者や自転車の安全が脅かされる		幹線道路ネットワークの完成による地区内への通過交通の排除
	天川周辺	天川を車で渡るルートが限定されている 天川堤防沿いの道が狭い		駅前へのスムーズなアクセスができない		天川以西の地区からのスムーズなアクセスの確保(堤防沿い道路の拡幅)
移動		駅へのアクセスが悪い(じょうとんバス)		周辺地区から駅へのスムーズなアクセスができない	全世代の方が使いやすい移動手段の確保 ・バリアフリー ・子育て世代、障がい者への配慮など 公共交通の充実	

■商業・生活基盤に関すること(まとめ)

分類	現状	直近の整備	残る課題	めざす方向性
安全・安心の確保				防災公園の整備 ・日常的には交流拠点となる防災機能を備えた公園の整備 交番の設置 ・地域の安全を支える交番を駅前に設置 避難施設の整備 ・水害に備え、高所の避難所を確保(既存施設の活用も考えられる)
商業施設	商業施設の衰退 近くにスーパーがない		・共働き世帯や高齢者が暮らしにくい ・買い物難民の増加	駅前への商業誘致 ・食品、日用品を買える施設、コンビニ ・大型のショッピングセンター、道の駅(幹線道路沿いでも良い) ・若者や家族が楽しめる施設
生活利便施設	公園や緑空間が少ない 病院などが少ない 銀行 ATM が減っている		・生活基盤の弱体化 ・地域の魅力低下	まちのにぎわい、生活利便につながる施設の誘致 ・身近な医療モールの誘致 ・健康増進施設の誘致 ・多目的なコミュニティセンター ・優良な企業の誘致 ・市役所の出張所
地区別	私道が多い		・老朽化に伴う維持管理ができるか	・公道への移管を行う
	下水道が未整備		・衛生面、管理面での課題がある	・整備上の課題を解決し公共下水道を整備する
	集会所がない		・県住の集会所を借りるが、階段があり不便	・地区の集会所を設けるか、駅前で集会ができるスペースを整備する
	駅周辺に開発余地がない		・活用できる土地が少ない	・大規模土地利用転換による新たなまちづくりの推進

第3章. 機能別施策

アンケートやワークショップで得られた具体的な意見に基づき、計画を以下の4つの機能別施策にとりまとめました。

1. 駅前空間・交流機能の強化

駅前広場を単なる交通結節点としてだけでなく、「人が集い、交流が生まれる、地域の顔」となる空間へと転換するため、ワークショップで重要度が高かった項目や、多世代交流・情報発信に関する要望を反映し、施策の具体例を示します。

駅前空間の施設

【休憩環境の整備と快適性の確保】

- ・「一休みできるベンチ」と「屋根」の設置を、ロータリーから駅までの動線に沿って一体的に計画すること。
- ・夏場の暑さ対策として提案されたミストシャワーなどの先進的な設備や、給電・給水機能を備えたイベント対応広場を導入すること。



駅前の一休みできるベンチ
(大阪府野崎駅)

【商業機能の誘致】

- ・「コンビニ・カフェの誘致、自販機・休憩スペース」を最優先とし、特に駅南側エリアにおいて、イートインスペースを併設した商業機能を確保すること。

【歴史文化の発信と多世代交流】

- ・総合案内板には、避難経路などの防災情報に加え、公共交通情報、ハイキングマップ、地域の歴史・魅力がわかるミニライブラリーなど地域の情報がわかる工夫をすること。維持管理の観点からデジタルサイネージでの情報発信なども有効と考えます。
- ・全世代向けプレイエリア（インクルーシブ遊具、ストレッチ器具など）、ペット専用エリアなど、多角的な交流ニーズに対応する施設を導入すること。

維持管理体制の確立

施設設置後の「維持管理の仕組みづくり」と「誰が施設を維持管理するのか」という共通課題に対し、計画初期段階から地域 NPO や指定管理者制度等の検討が必要です。

駅前空間・交流機能に対する意見



【利用のイメージ】

- ・通勤、通学だけの場とせず、交流が図れる場とする。
- ・登山や仕事など、外部の人々との交流を深め活性化につなげる。
- ・まちの成り立ちや歴史を紹介し、地域の魅力を伝える。

【公園の整備】

- ・全世代向けのプレイエリア。
- ・ペット専用エリア。
- ・ミニスポーツエリア。

2. 安全・安心と防災機能の高度化

頻発する災害リスクにも備え、日常的な防犯も強化する「総合的な安全・安心対策」の実現をめざす施設の具体例を示します。

災害対策インフラの整備

【防災拠点の整備】

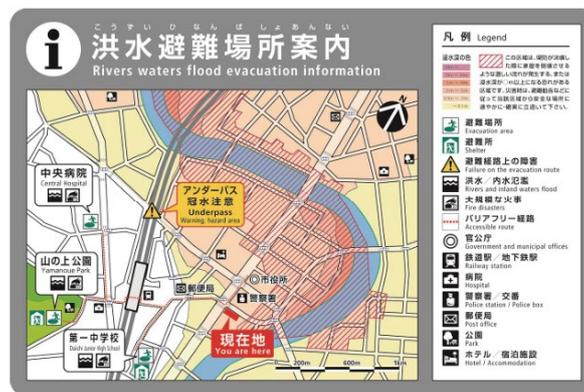
- ・駅前広場の防災拠点機能として、「緊急車両・ドローンの活動スペース」や「耐震性貯水槽」に加え、非常用電源（太陽光発電・蓄電システム、充電スポット）の設置をすること。
- ・日常的に市民が使えるよう、多機能ベンチ（簡易トイレ、炊き出し台機能）や防災物資が収納可能な倉庫を設置すること。

【情報と避難の確保】

- ・避難経路の「案内施設」と、水害対策として駅前や主要動線への「標高表示」を設置すること。

【浸水対策の強化】

- ・ハード・ソフトの両面から浸水対策は進めているが、激甚化する災害リスクを踏まえ、透水性舗装の採用など、駅前広場整備において対応可能なことを検討すること。



案内板
(避難経路や避難所などの案内)

日常の防犯機能の強化

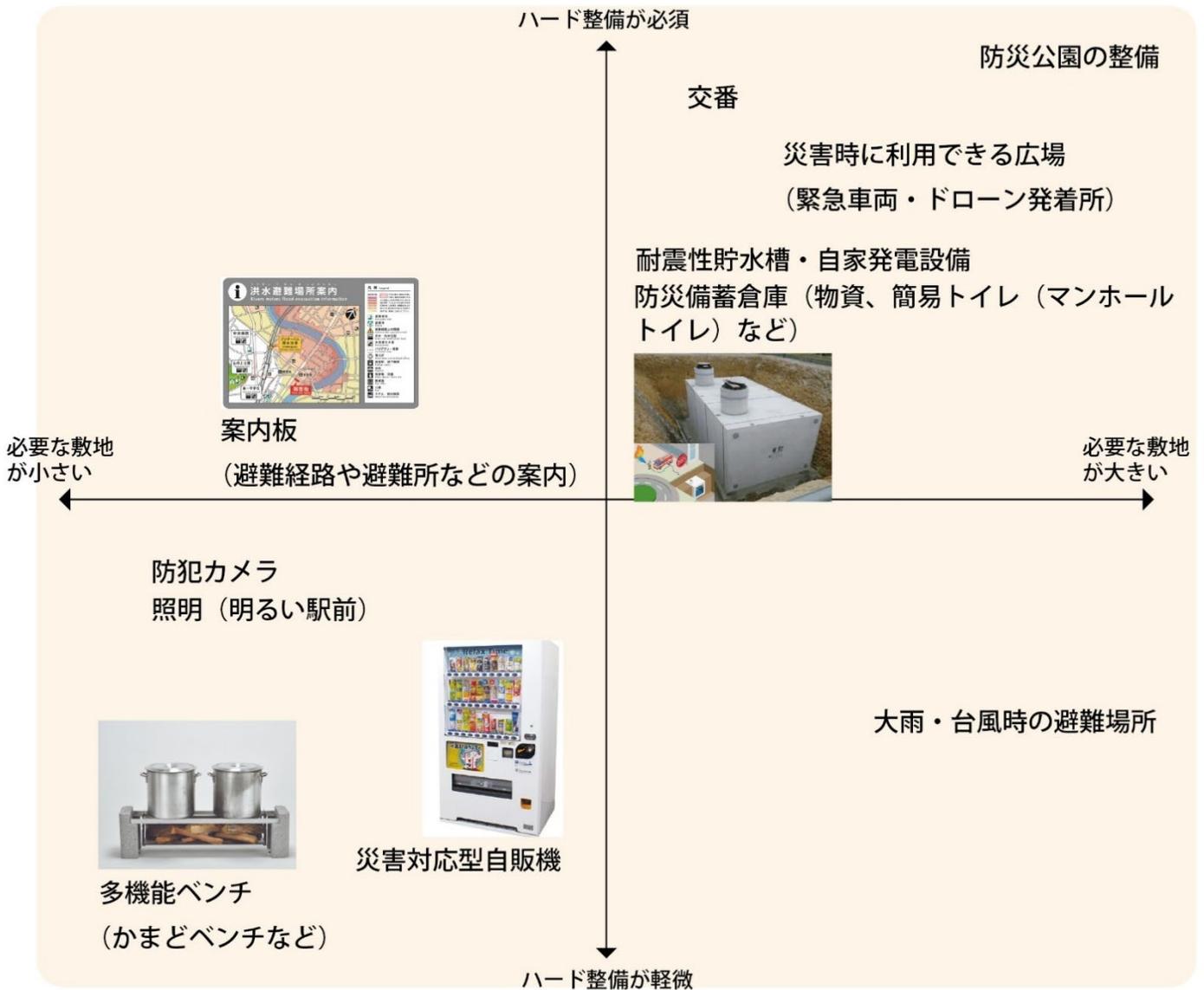
【安全施設】

- ・防犯面の強化と地域の安全を支える観点から防犯カメラを設置すること。
- ・現時点での設置予定はないものの、交番等を設置すること。

【夜間の安心】

- ・「とにかく明るくしてほしい」という要望を踏まえ、夜間でも視認性の高い効率的な照明計画を望みます。特に人通りが少なくなりがちな夜間の防犯性を高め、地域の安心感を向上させること。

安全・安心と防災機能に対する意見



【利用のイメージ】

- ・地域住民だけでなく登山客などの来訪者の安全を守り、減災にもつながる機能を持つ。(地点の標高表示なども有効)
- ・大規模な土地利用が可能なら、大規模な雨水貯留機能や災害発生時の仮設住宅用地などに利用できる土地利用が望ましい。

※防災公園としては適した場所ではないとの意見もありました。

3. 生活利便性とバリアフリーの実現

高齢者、子育て世代、障がい者、そして通学者など、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザインの徹底と、生活の質の向上につながる機能の導入例を示します。

バリアフリーの徹底と快適性の確保

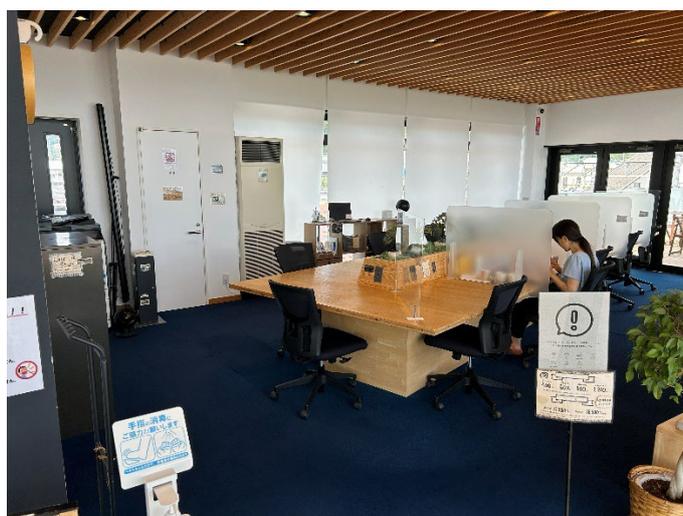
- ・「バリアフリーの動線の設定」を最重要視し、具体的にスロープ、視覚障がい者用誘導ブロック、音声案内システムを整備すること。

利便性機能の追加

- ・通学者の多い曾根駅の特徴を踏まえ、JRの遅延や豪雨の際に学生が待機できる「待避スペース」の設置を駅舎内または駅前施設内に組み込むこと。
- ・充電ステーションやフリーWi-Fiを整備することで、駅利用者の利便性向上や、災害時・一時的なテレワーク環境を整えること。

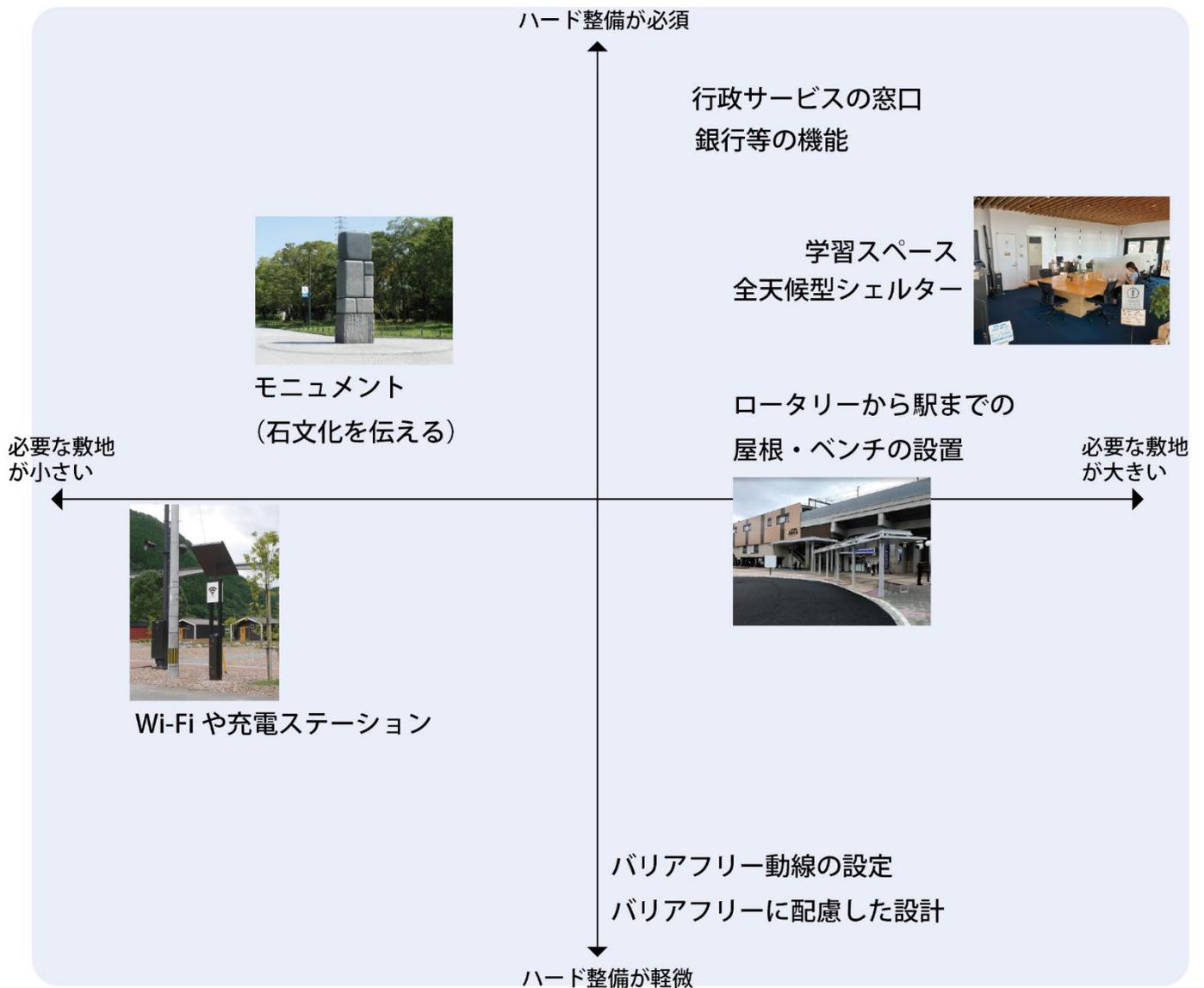


屋外充電ステーションの例



屋内待避スペースの例

生活利便性とバリアフリーに対する意見



【利用のイメージ】

- ・誰でも使用しやすいバリアフリーな駅前空間とする。
- ・駅の機能に付加して利便性を高める施設を誘致・整備する。

4. 新たなモビリティ・交通アクセスの改善

駅前広場の狭隘さによる駐停車利便性の低さを解消し、周辺地区からのアクセスを向上させるため、駐車・駐輪・公共交通の見直し案を示します。

駐車・駐輪対策の最適化

- ・送迎利用者の利便性向上と違法駐停車抑制のため、「20分以内無料」といった短時間駐車場を設置すること。
- ・駅南側にも駐輪場を設置することで、無断駐輪が発生しないよう初期段階から適切な管理対策を検討すること。

公共交通の利便性向上

- ・「コミュニティバスの利便性向上」を図るため、具体的な要望であったバスの小型化や増便を検討すること。
- ・レンタルサイクルやパーソナルモビリティ置き場の整備を検討し、多様な移動手段への対応を検討すること。



レンタサイクルの例



駅前広場内駐輪場の例

新たなモビリティ・交通アクセスに対する意見



【利用のイメージ】

- ・ 自宅から駅へのアクセス、利便性を向上させる。
 - コミュニティバスの小型化・増便・ルートの改良
 - 駐車場、一時使用駐車場（短時間無料）
 - モビリティ置き場
- ・ 来訪者の利便性を高めるレンタサイクルやコミュニティバスの運行。

第4章. 今後の推進に向けて

本計画に掲げた将来ビジョンと具体的な施策例は、行政と地域の関係者が一体となって取り組むことで初めて実現すると考えます。今後も、必要に応じて地元住民との対話の中で計画を進めることを望みます。

1. 整備と利用が両立する持続可能な体制の確立

整備後の駅前広場や施設の機能が地域に定着し、長期にわたり地域の資産として活用され続けるよう、計画の初期段階から維持管理の仕組みづくりに取り組むことが必要と考えます。

施設の整備に際しては、地域と市が協力し、駅前広場を活用したイベント実施や清掃活動といった利用を促すソフトな活動を行う体制を検討することが望ましいと考えます。

2. 道路拡幅を契機とした駅南側地区の再構築

現在、JR 曾根駅の南側では、重要なアクセス道路の拡幅整備が進行しており、交通機能の改善に向けた大きな一歩が踏み出されています。

この整備は単に交通の円滑化に留まらず、駅周辺の土地利用の見直し、都市機能の集積を促す可能性を秘めています。

駅南側を含めた広域的な土地利用の転換がある場合には、駅前へのアクセスの改善も含めた計画、地域住民の生活利便性に資する施設の誘致が行われることを望みます。

これまでの活動経緯

	日時	主な内容
第1回	令和5年7月19日(水)	設立総会 ・規約案の承認、会員の確認・役員の選出
第2回	令和5年11月15日(水)	・まちづくり構想・計画の目的、位置づけの確認 ・まちづくりヒアリングシートの確認
第3回	令和6年2月5日(月)	・ヒアリング結果のまとめ (地域資源、課題について)
第4回	令和6年3月18日(月)	・ワークショップ(駅舎のデザイン、地域資源)
第5回	令和6年7月17日(水)	・スケジュールの確認 ・昨年度のまとめの確認
第6回	令和6年9月9日(月)	・地域課題アンケートのまとめ ・課題解決に向けた検討(ワークショップ)
見学会	令和6年9月27日(金)	見学会 土山駅/福崎駅/はりま勝原
第7回	令和6年12月10日(火)	・見学会の報告 ・地域課題についてのとりまとめ
第8回	令和7年2月17日(月)	・まちづくりの方向性(ワークショップ) ・まちの構想図の検討(ワークショップ)
第9回	令和7年3月19日(水)	・1年間のまとめ
第10回	令和7年6月16日(月)	・これまでの活動の振り返り ・スケジュールの確認
第11回	令和7年9月3日(水)	・事前アンケートの意見の共有 ・意見交換(ワークショップ)
第12回	令和7年12月3日(水)	・まちづくり計画案の検討
第13回	令和8年2月16日(月)	・まちづくり計画の承認